

1971年8月7日 第3種郵便物認可(毎月1・6の日発行)

2024年3月8日発行 SSKA 頸損 増刊通巻11245号

SSKA

頸損

KEISON No. 142

目 次

特集 旅行における移動手段	1
小森猛さん追悼文	6
坂上正司さん追悼文	8
三戸呂克美さん追悼文	12
65歳問題学習会に参加して	14
第25回日本ボッチャ選手権大会出場報告	16
第7回災害リハビリテーション支援研修会参加報告	19
第11回 To be yourself「排泄」1 参加報告	20
車椅子使用者の円滑な航空機利用について 参加報告	21
リハ工学協会乗り物 SIG 勉強会報告	22
65歳問題 全国脊髄損傷者連合会とイベントを開催して	23
団体紹介「一般社団法人パラダンススポーツ協会」	24
愛知支部活動紹介	26
NPO法人ケアリフォームシステム研究会 第21回全国大会 in 兵庫	28
事務局からのお知らせ	29
お役立ち！？	30
全国頸損連絡会＆関係団体 “年間予定”	32
報道・情報ピックアップ	33
支部ニュース	34
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	35
編集部のページ	36

飛行機を活用した旅行

台湾と宮古島旅行の事例報告

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

頸髄損傷者の快適な移動を実現するために重要なポイントとして、「人」と「車椅子（電動車椅子を含む）」と「公共交通機関」の3つが挙げられると考えています。障害者や車椅子での社会参加に理解を示し、障害者が安全に移動できるように支援し、必要なサポートを提供する役割を果たすのが「人」だと思います。適切なトレーニングを受けた「人」が支援することで、障害者の安全かつ円滑な移動が可能になります。生活の場から外の世界に安全かつ快適な移動を提供してくれるのが「車椅子」です。自身の身体的なニーズや生活環境に合わせて設計された適切な車椅子があれば、障害者は自立して移動できる可能性が高まると思います。そして、障害者の社会参加の範囲を拡大し、今や日常生活を送る上で不可欠な役割を果たしてくれているのが「公共交通機関」だと思います。バス、電車、地下鉄、飛行機（移動経路にある建物も含めて）などの公共交通機関が、バリアフリーでアクセシブルな設備を整備することで、障害者の移動はさらに安全と快適性を増します。私が頸髄損傷者の快適な移動にこの3つが重要なポイントだと考えるのは、上記が理由です。

現在の移動環境は、公共交通機関の多くが整備され、社会環境も合理的な配慮をもって受け入れてくれているので、ある程度本人の意向に沿った外出や外泊ができるようになっていると思います。ただ、まだまだ移動環境に課題があるのも事実ですし、どうやって快適な移動をするか？その方法を知らない人も多いと思います。「もっと社会参加してもらいたい！」と考えている私から、飛行機を活用した移動の事例を紹介します。

昨年3月に台湾と今年2月に宮古島へ旅行したので、その時の飛行機活用の様子を紹介していきます。

沖縄県に移住して4年が経ちますが、沖縄県から主要空港以外の地方空港に飛行機で行くには、何か

と不便があることがわかりました。飛行機のコンテナは、機種によってサイズ制限があり、私の電動車椅子（長さ120cm：フットサポート折りたたみ時87cm、高さ132cm：ヘッドサポート外し時103cm、幅65cm、重量195kg）を搭載できる機種が限られており、小型機には搭乗できないのがかねてからの課題になっていました。沖縄県の那覇空港からは、利用客数が多い空港へは大型機が運航していますが、利用客数の少ない空港には小型機しか運航していません。そのため、目的地に近い主要空港に行って、そこから鉄道を利用して長時間の移動をすることや、海外であれば、国内で乗り継ぎをして出国する方法が、沖縄県在住の電動車椅子ユーザーには一般的なものになっています。

そこで、沖縄県から目的地まで直行便を活用して旅行することができないのか？小型機に電動車椅子を搭載して移動ができないのか？を検証するべく、昨年3月に沖縄県の那覇空港から台湾の桃園空港間を小型機で移動してみました。いきなり「直行便での海外旅行」というハードルが高いチャレンジでしたが、結果的には目的を果たすことができました。

航空会社の選定から始めました。2つの会社が候補に挙がっていたのですが、知人からの情報もあって「チャイナエアライン（中華航空）」に決定。決定といっても「この航空会社に交渉してみよう」という段階であり、まずは電話で確認することにしました。ところが、ここから面白い展開に。那覇市牧志で台湾フェアが開催され、そこにチャイナエアライン沖縄支店の支店長が来場するということで、直接お願いをしに行くことになりました。知人の仲介で、支店長と話す場をセッティングしてもらい、直談判を…というような感じではなく、大変和やかな雰囲気での話し合いになり、私：「絶対乗せてよ！」、支店長：「問題ないよ 笑」という感じで終了。電動車椅子のスペック（仕様書）をメールで送り、問題な

く搭乗できることになりました。私が乗る機種は、エアバスA330-300。ヘッドサポートを外す必要がありましたが、103cmで全高はクリアしました。

当日の那覇空港国際線チャイナエアラインのチェックインカウンターでの対応も、事前にやり取りしていたこともあり大変スムーズでした。チャイナエアラインのスタッフに加えて、JALのスタッフがサポートしてくれたので、スムーズかつ丁寧に電動車椅子をバブルシートで梱包してくれました。いつも私が飛行機を利用する際に担当してくれるスタッフが手伝いに来てくれたので、電動車椅子の説明が簡単に済ませることができ、大変助かりました。いつも使用している移乗用具で空港内移動用車椅子に移乗して、機内座席への移乗もスムーズに行えたので、出発に関しては拍子抜けするくらい問題なくクリアできました。機内も快適でしたが、ひとつ戸惑ったのが機内食で、1時間くらいのフライトでウェルカムドリンクと魯肉飯（ルーローハン）を食べるのはちょっと忙しかったです。桃園空港も問題なく利用することができ、台湾出国時のチェックインカウンターで、私の電動車椅子を数名のスタッフで担いで台車に乗せようとした暴挙（腰痛になるかもしれないで止めた）以外は、ほとんどハプニングもなく帰国できました。

台湾は、公共交通機関のバリアフリー化が日本より優れていると聞いていたので、実際に確かめてみたこと、いろいろと爆笑の体験をしたことは、また別の機会で報告したいと思います。ともあれ、電動車椅子では近くで遠かった国「台湾」に、小型機に乗って直行便で行きたい！という願いは叶いました。



電動車椅子のスペック確認



電動車椅子が完璧に梱包されました



機内搭乗の様子

そして、今年の2月に那覇空港から宮古島の宮古空港間を、プロペラ機に初めて搭乗して移動したことも紹介します。

宮古島へは、今まで3回行っています。電動車椅子では2回行っていますが、いずれも羽田空港から私の電動車椅子を搭載できる大型の機種で行きました。1回は那覇-宮古間を利用しましたが、そのときは小型機に搭載可能な介助用車椅子で行きました。そのため、那覇-宮古間を電動車椅子が搭載可能な機種で直接移動したことではなく、私の電動車椅子を搭載して運んでくれる機種が今までないものだと思っていました。ところが、よく調べてみるとどうやら小型機ではあるけれども、プロペラ機の中に私の電動車椅子が搭載可能な機種があることが判明しました。それが、ポンバルディア DHC-8-400 カーゴコンビという機種でした。

実際に乗れるかどうかは、最終的には予約してからでないとわからないため、航空機チケットを予約

して、車椅子利用の相談窓口に問い合わせてみました。「問題ない」という回答が得られるまで結構待ったので、嫌な予感しかしませんでしたが、結果的には「利用可能」という回答が得られました。相談窓口の担当者からは、DHC-8-400 カーゴコンビは、貨物室が広いらしく、私の電動車椅子の高さ（ヘッドサポートを外さない状態）でも搭載可能との情報を得ることができました。小型機であり、プロペラ機であったので、「本当に大丈夫か？」と不安を抱えながら当日を迎えました。

スムーズにチェックインが完了したので、「電動車椅子の問題はクリアしたので、初プロペラ機でも余裕だ！」と思いながら、いつも利用する搭乗口とは違う搭乗口へ。プロペラ機には、バスで移動して搭乗することのこと。これも初体験でした。「初」ばかりでしたので少しテンションを上げながら待機していたのですが、プロペラ機までバスで移動する直前になって、グランドスタッフから「宮野様、もしかしたら電動車椅子が貨物室に入らないかもしれません。」と告げられ、少し動揺しました。「もしかして、俺の体だけが宮古に行くの？」と宮古島の空港で借りた介助用車椅子で旅行を楽しむ姿を想像しながら、バスに乗ってプロペラ機に接近。ボーディングリフトの装着ができないステップ内蔵型小型機専用の車椅子専用リフト（これも初体験）を使って機内に乗り込みました。片側2列の座席の通路側座席に、移乗用具を使って移乗。かなり狭いスペースでの移乗となりましたが、私の介助者も含めグランドスタッフ全員が、安全かつ丁寧に座席に移乗させてくれました。座席に移ったところで「電動車椅子はどうなりました？」と尋ねたところ、グランドスタッフやCA が全員笑顔で親指を立ててくれたその光景が感動的で、今でもハッキリと思い出せます。

宮古島では最高の体験をしました。この体験については、また別の機会に報告します。宮古島からの帰路も、行きと同じプロペラ機でした。行きの機内への乗り込みもスムーズでしたが、帰りの乗り込みはさらにスムーズでした。帰りにグランドスタッフから教えてもらったのは、行きの飛行機で「電動車椅子が搭載できないかも？」となったのは、飛行機

の貨物スペースに、電動車椅子やその他の荷物の重量バランスを考えて、電動車椅子をどの位置に載せるかに手間取ったからではないか？ということでした。実は帰りの飛行機でも、同様に電動車椅子の積み込みに時間をおこすようでした。私が組み立て式の介護リフトを持参したので、余計に重量バランスに困ったのだろうということが容易に推測できました。ただ、介護リフトを持参したこともあり、電動車椅子とベッド間の移乗に全く問題がなかったので、スーパー快適な旅となつたことを伝えておきます。那覇空港-宮古空港間を小型機に電動車椅子を搭載して移動することは実証できましたが、ひとつだけ課題があるとすれば、それぞれの空港の出発時間でしょうか。便数が限られているため、那覇空港の出発は早朝、宮古空港の出発は夜間しかありません。時間的にも選択肢が増えれば、誰もが利用しやすいと考えます。



バスに乗る前の待合室にて



プロペラ機までバスで移動



車椅子専用リフトから機内へ



機内座席への移乗



小型機専用車椅子専用リフト



プロペラ機の前で撮影



人力で電動車椅子を貨物搭載車前まで移動



フォークリフトで貨物搭載車に積み込む



台湾といえば小籠包♪



青い海とガーリックシュリンプとビール♪

オレンジフェリーを利用して

愛媛頸髄損傷者連絡会 宇高 竜二

愛媛県西条市の東予港と大阪南港を就航するオレンジフェリーを利用しました。2018年にフェリーターミナルもフェリーも新しくなり、我々車椅子ユーザーも随分利用しやすくなりました。

フェリーターミナルから船内へは、段差も解消され車椅子でも大丈夫です。車での乗船時には、車両甲板から客室フロアまでエレベーターで移動できます。エントランスも広々として、車椅子での移動も問題ナシ。

客室も完全個室になっていて、隣の部屋とは内扉で繋がっているため、ヘルパーさんとペアで利用することができます。

ベッド移乗は、一般的な車椅子や簡易電動はベッドも低い位置にあるので移乗しやすいと思いますが、大型の車椅子になるとベッドから車椅子へ乗り移る際に大きく高さの差があるため移乗がしにくい印象です。

障害者も利用しやすい構造になっているため、レストランも利用でき、多目的トイレやバリアフリー浴室も完備されていて、通路も幅広で走行しやすく利用しやすいです。



「あなたの思いは永遠に！！私たちの心の中にー」

—天国に行っても小森さん life—

京都頸髄損傷者連絡会 村田 恵子

私には障害者運動や活動を教えてくれた恩人がふたりいます。そのひとりが小森猛さんです。

もう、おふたりとも天国に旅立たれました。

あまりに早いお別れでした。

あっという間の出来事でした。

出会って、僅か10年あまり、そんな短い間でしたが、多くのことを教えてもらっていたと、守ってもらっていたと思い起こしています。

もっともっと学んでおけば良かった、これほど近い存在にいてもらったのに気づかなかった自分を悔やみます。

私と小森さんの出会いは、ひとり暮らしを始める際に悩んでいたとき、相談にのってもらったことでした。笑顔で「村田さんが考えておられることは間違っていませんよ。大丈夫ですよ」と言ってもらった優しい言葉とともに大きな勇気をもらいました。そして私はひとり暮らしを始めてから怒濤の如く、京都頸髄損傷者連絡会の会長となり、3ヶ月後には京都で障害者差別を解消する条例の検討委員となりました。京都のネットワーク組織「障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会」の副会長を引き受けて、女性障害者の差別と課題を提言する中で、障害者団体が男性中心で女性リーダーの少なさを実感し活動するようになりました、小森さんからも、「もっと全国的な活動のリーダーに！」と言われるようになりました。

考えたら、すぐに動くという、決断が早く行動力のある方でした。そして求心力と先見性のある方でした。将来へのビジョンは揺るぎなく変わらない姿勢に、偉大な方だったと感じています。

ここ数年、各支部とも設立に関わられた方がお亡くなりになることがありましたが、私たちの身近な仲間で起きるとは、しかも小森さんに起きるとは全く思いもしませんでした。

小森さんが、何かと「疲れた」「自分も危ない」と

言われて、日頃から食事や健康管理をされていたので私はいつも笑いながら「アホなこと大丈夫ですよ」と言っていたことを思い出しています。

定例会議では、いつも場を和ませるためと冗談を言って揶揄されて、よくちょっかいを受けました。

それがないのが凄く淋しいです。

グルメでもあった貴方と食事をするときも障害者の人権を尽きることなく語り合いましたね。

小森さんが陣頭指揮を執って設立された京都頸髄損傷者連絡会は、「重度な障害のある人たちが自分らしく生きることができる社会をめざす」という活動スローガンのもとに、多くの仲間が集って発足しました。そして一人暮らしを相談された方々の地域での生活を実現するため、京都でいち早く「自立体験室」をつくってバリアフリーな環境での生活を体験できるようにしました。

また、バリアフリー住宅を京都府内、京都市内に何か所もつくるべく運営し、京都府、京都市へ障害のある人たちの住環境の整備を訴えました。

そして行政機関へ提言する団体として確立、京都府、京都市との定期的な交渉では、各支部会員のみなさんにもかかわりのある訪問看護費の自己負担ゼロや簡易電動車いすのリチウムイオンバッテリーの基本支給の実現に取り組まれました。

今、私たちは、小森さんが強く提言してきた「障害のある人すべてが地域あたりまえに暮らせる社会」に向けて、国連障害者権利委員会で提唱された「脱施設化」「地域移行」への取り組みを、小森さんから私たちに預けられた重点課題として受けとめて取り組んでいます。そして障害のある女性への課題のメインストリーム化と施策の提言も進めています。どうか、これからも天国から見守ってください。

「生きているあなたたちには使命がある」と！

小森猛さんを偲んで

京都頸髄損傷者連絡会 石倉 雅樹

昨年の11月11日、京都頸髄損傷者連絡会の元会長であり長年にわたり私たちを導いてくれた小森猛さんがお亡くなりになりました。私にとって大きな存在であり、多大な影響を与えてくれた人だけに、第一報を聞いたときは信じられない気持ちとともに悲しみがこみ上げました。

小森さんを一言で表現すると、公平ではない社会に厳しく、困っている者がいれば分け隔てなく手を差しのべる、そんな強くて心優しい人でした。まさに障害者が暮らしやすい世の中に変えていくのに相応しい人物であったと思います。本人も自分の趣味は障害者運動だと冗談とも本気ともつかない言葉を口にしていたものでした。今振り返れば、遊びに興じている姿はあまり印象になく、あの言葉通り障害者運動に生き甲斐を感じていたのかかもしれません。

より重度な者が地域で暮らせる社会を目指し活動を続ける京都頸髄損傷者連絡会において、その先頭に立ち行政交渉に挑む際、信念を貫き真っ向から対峙する姿には迫力がありました。納得のいく回答が得られなければ敵陣に乗り込み、すさまじい胆力をもって交渉にあたります。本人曰く、勉強は好きではなくあちこち走り回って行動するのが性に合っている、とよく口にしていましたが、福祉に関する講習会やセミナーが開催されれば欠かさず参加して知識を身につけていました。もっとも、怪我をする前はピッチャーとして腕を鳴らしこのまま行けばプロ野球にスカウトされるほどの逸材であったらしいですが、それを感じさせる精神力や粘り強さ、リーダーの資質を持ち合わせた人でした。

一方で、支援費制度が始まり福祉サービスの需要が増し、必要な介護を受けられない状況を懸念した小森さんは、居宅介護事業所の必要性を訴えました。当初、京都頸髄損傷者連絡会でNPO法人を設立し、介護事業を展開したいと考えていましたが、役員からは重度の障害者が事業所の運営ができるのかと不安の声が上がり、賛同を得ることができませんでした

た。そこで、別法人を立ち上げてそちらの方で力を尽くし、亡くなる前日まで走り続けました。

今では障害当事者の起業は珍しくありませんが、当時の決断力には感心するばかりです。これも、地域で暮らすためにするべきこととして彼の使命感から行動に出たのだと思います。

障害のある人が施設ではなく地域で家を借り、ヘルパーや看護師に来てもらいながら生活していく。これが当たり前のようにできるようになったのも、全国各地でこういった熱い思いを持つ人たちの行動によって成し遂げられたことだと感じます。

個人的な話に戻ると、私が一人暮らしを始めると親身になってくれたのが小森さんでした。今日のようにネットで情報を得ることが難しい時代に、何から手を付ければよいかわからず、住居の確保から介護・看護、ライフスタイルに至るまで教えてもらい、交渉事には間に入つてもらうこともしばしばしました。特に介護者不足の問題は、措置から支援費への移行前であってより深刻でしたが、そんなときは、小森さんの同級生を紹介してくれて、同居人として一緒に住んで援助を受けました。それでも足りず、小森さんのお母様まで呼び寄せてもらうなど、全力を挙げて助けてもらいました。その後、生活が一段落した寒い日、鍋一式を持って訪ねてくれた小森さんらと、肩を寄せ合って食べた鍋の味は一生忘れられません。一人暮らしではやりたいこともできるのだと、そんなことを伝えたかったのかもしれません。彼が大事にしていた自由や権利というものが、少し理解できた瞬間もありました。

このような小森さんの一つひとつの行動のおかげで今の私があるのも間違いありません。彼の信念を受け継ぎ今度は私たちが次の世代のために行動することを忘れてはなりません。最後になりましたが、小森さんとの出会いに感謝しています。福祉とはこういうものだと体現して示してくださり有り難うございました。そして、お疲れ様でした。

坂上正司さんを語る

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

2023年11月28日、坂上正司先輩が旅立たれました。享年59歳。あまりにも早すぎる最後でした。

脳内出血で眠るように亡くなられたそうです。11月25日に私が所属するNPO法人の20周年記念シンポジウムに「行くからね。」と会話したのが、2週間前の話。11月23日に病院に搬送された連絡がありました。「兵庫支部のこれから体制をどうしようか？」と話したのが最後の会話でした。

私がお手本とする5人の頸髄損傷者の1人である、優しき四天王のうちの1人である先輩の話を、私なりの書き方で記したいと思います。

先輩からは様々なことを学びました。「地域に生きる。地域で生きる。」を実践された方だと思っています。それを言葉ではなく、行動で示してくださった先輩でした。

先輩との最初の出会いで強く記憶に残っているのが、低血糖症状の回復方法についてのアドバイスです。受傷当初、急にフラフラして息苦しくなる症状に陥り、それが頻繁に起こるので困っていました。入院時に自分なりに習得した回復方法は、アイスクリーム、チョコレートをバカ食いすることでしたが、これにはリスクがあり、回復してもその後必ず下痢をしていました。そんなことを大阪支部の総会か何かのイベント時の雑談で話したときに、先輩が「俺は常に温いコーラを持ち歩いている。そういう状態になったときには一気飲みをすれば回復するんだ。」と助言してくださいました。聞いたこともない回復方法でしたので半信半疑でしたが、低血糖症状に陥った時にダメ元で実践してみたところ、一瞬で回復したその効果に大変驚いたことを覚えています。頸髄損傷になって31年が経ちますが、今も炭酸を一気飲みする回復方法を活用しています。

また、あるイベントの企画をしていた時、「ごめんやけど、その日は用事があるて行けない。」と言われたので、何の用事かを尋ねたところ、「地元の祭りが

あるんや。」と言っておられたのも印象深いです。よくよく聞いてみると、祭りに地区の神輿を出すことで、そこに参加する必要があるということでした。通常、我々が考えるのは、神輿をかついだり、運営に携わるのは障害がある体では無理だから、地域の寄り合いや行事ごとには参加はできない、ではないでしょうか。しかし、先輩はごく当然のように、地域の行事に参加すると言っているのです。神輿をかつげなくとも、自分ができることで貢献する。地域の寄り合い等には積極的に参加する。このような姿勢に驚き、非常に感銘を受けました。それからは私も真似をして、地域の清掃活動や草刈り、会合に出席するようになりました。いろいろなところに顔を出すと、最初こそ皆さん戸惑いがありました。そのうちそれが当たり前になり、私がやることに配慮してくださったり、私が参加しやすいように工夫をしてくれるようになりました。地域で生きていくためには、障害があることを恥ずかしく思わず、積極的に参加していくことが重要だということを教えてもらいました。

「これから東京に行くねん。」という言葉もよく聞きました。何かの会合に出席されること。今から思えば、全国頸髄損傷者連絡会の代表者の会議に参加したり、東京での障害者の集まりに参加していたのだとわかりますが、当時は「東京に用事があるなんて、めちゃくちゃカッコいい！」と憧れたものです。いつの間にか、私も当たり前のように全国の会合に出るようになりましたが、もし先輩がそういう行動を見せてくださらなかつたら、今のような行動はできていなかつたかもしれません。

「you are not alone.」先輩が授けてくださった言葉で、私の行動指針にもなっている言葉です。2005年に全国頸髄損傷者連絡会の総会を兵庫支部が運営担当した大会の時に、皆さんへの配布資料を入れる封筒のラップに「キャッチャーな言葉を入れよう！」

という案が出たときに、先輩が提案してくださった言葉が「you are not alone.」。そのときは言葉の響きとカッコよさだけで賛成したように思いますが、この「あなたは決して独りではない。あなたを決して独りにはさせない。」という決意は、現在に至る兵庫支部の活動の基礎となっており、長きにわたり全国頸髄損傷者連絡会のスローガンとなっていました。

先輩は、いつも私に言葉をくださいました。私が19年前にひとり暮らしを始めたときには、「俺たちに、枕をひいて布団の上で安堵して眠れる夜などない。地域で、泥水すすって、地面に這いつくばって生きて、熱く死のう！」最初は意味がわかりませんでした。でも、19年が経っても常に不安定な介護保障のもと、地域で自立した生活を送る権利を獲得する闘いを今もなお続けている。先輩の言葉の意味が理解できるようになりました。

お茶目な先輩は、エイプリルフールでよく笑わせてくださいました。21年前の4月1日、まだ兵庫頸髄損傷者連絡会が発足していないときに、メーリングリストで「兵庫頸髄損傷者連絡会発足！」というタイトルで投稿されていました。何よりも秀逸であったのが、明石市産業交流センターにおいて32名の方が参加され、多くの来賓を迎えた中で、活気ある発足総会を開催したという内容でした。会長・坂東由並子、事務局長・三戸呂克美（故）、会計・吉田みち（故）、広報部長・桜井龍一郎（故）、企画部長・宮野秀樹、監査・竹内知子という役員体制で正式に発足するといったジョークでしたが、今考えてみても「すごい！」としか思えない内容です。私はこの時点では、まだ頸髄損傷者連絡会の活動に深くは関わっていましたが、なぜか名前が加えられていきましたし、見れば見るほど的確な人事であると思えるし、何よりも20数年前に女性を役員に登用するというジェンダーバランスが考えられていたということが驚きでしかありません。

先輩にはよくお酒をご馳走になりました。バーベキュー大会ではビール、忘年会では焼酎、「先輩、お酒を奢ってください！」と言って、2人で酒を酌み交わしました。頸髄損傷者連絡会の活動もさること

ながら、事業についても相談に乗っていただき、アドバイスを受け、公私ともに大変わせになっていたので、敬意を込めて“たかって”いました（笑）。先輩が事業を引退するとき、私が奢るんだと決めていたのですが、それが叶わなくなつたのが今は一番寂しく感じています。

考えてみれば、先輩に怒られたことがありません。いつも温かく見守ってくださいり、求めたときは的確な助言をくださる、心強い大きな存在でした。私の強い味方がいなくなることは辛いですが、先輩から教わったことを次の世代につなげていくことで恩返ししたいと考えています。

先輩、最後まで地域での自立を全うして、熱く死ねてよかったです！まだまだ先になりますが、あとに続きますので待っていてください！

それと最後に、先輩に重要なことをお伝えします。先輩が「これは宝塚限定やと思うねん。」と仰っていた無印良品の「塩せんべい」ですが、実は全国のどこの無印良品でも購入することができるんですよ！昨年の忘年会にも購入してみんなに配りました。本当に美味しいですよね！みんな「旨い！」って言っていましたよ！

本当の最後に。皆さんにご覧になってほしい先輩の原稿があります。「頸損解体新書2020」の中の「運動の原則と課題への取り組み」に対して執筆いただいたものです。個人の思想が強く、根拠の薄い表現が用いられた文章であったため、編集の責任を負っていた私が、全国頸髄損傷者連絡会の総意ではないと不採用の判断をしました。いつかこの原稿を発表できる場がないかと考えていました。遺稿という形で取り上げたいのではなく、我々にとって課題とするべきことや、とるべき行動が示されている内容ともなっているため、この機会に掲載することにしました。やや過激な表現もあります。どうかご容赦くださいますようお願いいたします。

※個人の思想や根拠が薄い表現がありますが、どうかご容赦ください。

運動の原則と課題への取り組み

坂上 正司

◆ はじめに

2006年12月に採択され、日本では2014年1月に批准された国連障害者の権利条約には『障害のある人が、他の者との平等を基礎として、居住地及びどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること、並びに特定の生活様式で生活するよう義務づけられないこと』（第四条）が規定されている。これがまさに「自立生活をする権利」を認めた法的な根拠といえる。だが、ここにたどり着くには長い道のりがあった。1970年代に始まる鉄道・バス等の公共交通機関へのアクセス保障の戦いや住居や建築物に対するバリアフリー化の要求、そして1980年頃から始まる介護保障を求める運動などを経て、その時々にそれに伴った法律が整備され、またそれをより効果のあるものになるよう求めてきた。

2004年と2011年には障害者基本法が改正され、2013年の障害者差別解消法の制定により、障害者の自立生活や差別に関わる課題が解決していくように見えた。障害者運動そのものがなくても、世の中は障害者が住みやすく変化していくようにも思えた。

◆ 相模原障害者施設殺傷事件

2016年（平成28年）7月26日未明、神奈川県立の知的障害者福祉施設「津久井やまゆり園」で入所者19名が元職員に刺殺、他数名が重傷を負うという事件が発生した。この事件はわたしたち障害者を驚愕させた。

まず、わたしたちを驚かせたのは犯人の発言だった。公判で犯人は、「（他の）職員が利用者に暴力を振るい、食事を与えるというよりも流し込むような感じで利用者を人として扱っていないように感じたことなどから、重度障害者は不幸であり、その家族や周囲も不幸にする不要な存在であると考えるようになった」と論述した。これは優生思想そのものである。つまり、この事件は、特異な人間が起こした特異な事件ではなく、収容施設であればいつでも起こりうる事件だったと言うことを如実に示してい

る。それなのに施設側は何の責めも負っていない。旧来から伝え続けてきたように、大規模収容施設の脆弱性が見事に示された。改めてわたしたちは「施設」を取り巻く課題にしっかりと向き合う姿勢を紹介されたようだ。

ふたつ目は、この事件では死者の氏名が政治主導で公表されず、マスコミもそれに倣ってジャーナリズムを放棄した。亡くなった彼ら、彼らが生きてきたという事実まで消してしまうこの動きは、事件そのものをなかつたことにしようとする政治と地域の悪意すら感じられないだろうか。

法律が整い、障害者の生活が一定の保障を見たと思えたのは幻想でしかなく、わたしたちはより見えにくくなった差別と闘う運動を続けていかなければならなくなってしまった。

◆ 新型コロナウイルス感染症

2020年初頭から新型コロナウイルス感染症（Covid-19）が世界を席巻し、2021年の4月現在でもワクチンが開発されたものの、収束の兆しはない。「蜜」でない状態が感染を防ぐ方法だと言われても、何らかの介助が必要な障害者にとっては悩ましいものだ。ましてやわたしたち頸髄損傷者にとって介助者は命綱なのだ。軽度の感染であれば自宅療養と言わざるを得ないが、介助者がきてくれなければ自宅で療養はできない。「蜜」なる状態を善か悪かで決めつける発想は危険であり、特に為政者がそんなコトバを軽々しく口にするものではない。都知事がそれ言い出すのは茶番である。それならば東京一極集中の官僚主義を見直し、地方分権を確立すればいい。

また、このコロナ騒ぎのかなり早い段階で「トリアージ」と言うコトバも登場した。災害や事故で多数の人が生死をさまよう状態で、一人でも多くの人の命を救おうとする治療手段がトリアージだ。助からない命に時間をかけるより、助かる可能性が高い順に治療するということだそうだ。一見正しいことのように見えるかもしれないが、考えてみてほしい。

その基準を作るのは誰なのか。わたしたち頸髄損傷者はどう扱われるのか。「命のガイドライン」などというものが作られるようだが、これは「命の選別」そのものではないか。頸髄損傷者には少し遠い存在だった「優生思想」というコトバが、突然身近なものになってきた。為政者や医者は余計なことを考えずにできるだけ多くの命を救うことに力を注いでほしいものである。

◆ 東京オリ・パラと無人駅問題、乗車拒否

執筆時点で東京オリンピック・パラリンピックの開催は相変わらず不確定だが、開催に向けた施設整備は進みつつある。特に競技施設に関しては国際基準に準拠しなくてはならないので、まさに「黒船」によるバリアフリー推進といったところだ。交通機関もオリ・パラとインバウンド景気によってバリアフリー化が少し加速したように思われる。またバリアフリー新法の改正や障害者インターナショナル（DPI）日本会議の働きかけにより、新幹線の車椅子席の数や差別的な予約システムが見直され、そのことが鉄道の特急などが抱える同様の問題に手をつけられようとしている。

一方で、鉄道の合理化が無人駅や夜間無人駅を増やしている。ほとんどの鉄道は車椅子利用者の単独乗車が物理的に不可能である現状での無人駅化は、事実上の乗車拒否に当たる。オリ・パラ推進派の人たちが同じ口で無人駅での事実上の乗車拒否について「仕方なし」と言っている姿は珍妙に見える。また、事前に連絡をした上で利用を求められことがあるが、これもとうてい公平な扱いとは思えない。残された課題といつていい。

タクシーについてもいわゆるユニバーサルタクシーによる乗車拒否、路線バスの乗車拒否、長距離バス問題など移動の抱える課題には枚挙にいとまがない。課題が細分化されていくため、障害者全体での運動がより欠かせなくなってしまった。

◆ 災害

近年大規模な災害が目立つようになってきた。しかし、報道は年々縮小され、2016年の熊本地震以後は、政府の圧力なのか極端に報道されなくなった。

個人的に阪神・淡路大震災の渦中にあった身として

は、5年たった時点で比較すると、熊本地震の復興のスピードは不自然に遅くすら感じる。

災害が起こるたびに問題になるのが障害者と避難所の問題だ。避難所の抱える課題は10年前の東日本大震災から大して変わっていない。26年前の阪神・淡路大震災から見ても言わずもがなである。なのに全くといって避難所の抱える問題は改善されていない。ほとんどの人が避難所の利用から解放された時点で避難所のことなど忘れている。自治体は独自に課題を解決しようとせず、国がガイドラインを作るのを待っているだけだ。ガイドラインができればできたで、それに従って福祉避難所のようなものを指定して終わり。そこにどんな機能を持たせ、どんな組織体系を整えていくかなどは押しつけた施設に丸投げといった状態だ。話し合いで障害者は後付けで呼ばれ、最初から参加しても、地域のドンらしき人物が「わたしたちは障害者の生活を知らないから・・・」で始まるだけで、過去の積み重ねがない。議論が進んできたら進んできたで「障害者のことばかりやってられない」と一般論化し、最後には「自助」というコトバを使ってくる。コロナ騒ぎでも同じなのだが、自助・共助・公助というコトバを並べるのは自己責任論に問題を転嫁するための方便にしか過ぎない。災害の課題を解決するためには、国が災害の最弱者を救済できるための予算と仕組みを作っていくしかないのだ。

以上、障害者運動について徒然に書いてきたが、法律が整ってきた今だからこそ取り残された課題が細分化、個別化してきた。多くの障害者が生きていけるようになったために、「それでも生きづらい障害者」への眼差しが薄く、冷たくなってきてるようだ。カルネアデスの板の例えのように、難破船の残骸の板に掴まって漂流している人たちが、もう一人が掴まると沈む可能性があるとき、その人を犠牲にしてもいいのかという命題に対して、障害者は常に弱者の立場におかれている。残された課題を解決するために、今改めて障害者運動が必要になってきている。

追悼、三戸呂克美さま

～頸損連で活動し続けた40年間、皆のためにありがとうございました～

大阪頸髄損傷者連絡会 鳥屋 利治

今年2024年1月21日、三戸呂克美さんが天に旅立られた。頸損連の歩みと発展は、三戸呂さんを抜きにしては語れない。その歴史をひも解くと、1982年、当時三戸呂さんが大阪府堺市の府立身体障害者福祉センター附属病院にリハビリ入院していた時、大阪府在住の頸損者5名ほどで結成されたばかりの大阪頸損連の前身である「頸髄損傷者友の会」で活動を始めた辺りから大阪での頸損当事者活動が展開されていくことになる。1983年に、会員の交流と拡大、会の広報、他団体との交流、ボランティア確保のために外出イベントを企画し大阪城博覧会を見物、後の大阪頸損連での定番行事「街に出よう」につながり、このとき新聞数紙の地方面、大阪ボランティア協会報などに掲載したこと、会員およびボランティア加入の大幅拡大となったようだ。まだまだ介助ヘルパーなどのない、外出にあたっては家族やボランティアの協力なしには成立しない時代だった。また、同じ年JC（大阪青年会議所）後援による大阪福祉マップ作りを、他団体と共に大阪頸髄損傷者友の会からも有志が参加、マスコミ報道も多々あり、「大阪車イス街図（ガイドマップ）」作りは成功したそうだ。バリアフリー調査にあたり、鉄道各社は乗車2時間以上前に連絡をしろと、レストラン等の一部は、車イスは“お断り”と門前払い。マップ作りの前半は困苦があったが、マスコミ報道、JCの後押しにより後半はスムーズに行われたと聞く。1985、86年には大阪で行われた車イス市民全国集会、日米障害者セミナー、国際障害者年記念集会などのイベントにも会から参加、全国「頸髄損傷者連絡会」の大阪支部活動も始まった。86年は大阪市での全身性障害者介護人派遣事業が始まった年。また、日本で初めての自立生活センターである八王子ヒューマンケア協会が設立された年でもある。87年には、大阪頸損友の会に三戸呂会長就任。全国頸損連の大坂支部活動として初総会、会則制定。当時の大阪支部

会員数はまだ20数名。近畿地区の頸損者に、頸髄損傷者生活実態調査を実施（大阪、兵庫、奈良、京都の頸損者220人を対象、回収率57.7%）。88年には大阪頸損友の会の名称を「大阪頸髄損傷者連絡会」とし、生活実態調査結果を大阪頸損より別冊「頸髄損傷者生活実態調査報告書」として発行にこぎ着けた。90年には、大阪頸損連では初めての頸損連全国総会を大阪市長居障害者スポーツセンターで開催し、宿泊は体育館柔道場で雑魚寝。貸布団・毛布、宿泊介助はボランティアで対応。頸損連の各地での活動もさらに活発化していくことになる。90年91年と言えば、「ADA法（障害を持つアメリカ人法）」が成立、国内では全国自立生活センター協議会（JIL）が発足した年もある。

そこから10年という時を越えて2001年、三戸呂さんが呼び掛け人となり兵庫頸損連設立準備室を開設し、2003年には兵庫頸損連を発足させた。兵庫頸損連三戸呂初代会長として2005年には頸損連全国総会兵庫大会を成功させ、2006年には全国頸損連会長にも就任。兵庫だけでなく全国の頸損連も束ね、さらに重責を担っていくことになる。その間には韓国ソウルやカナダバンクーバーにも頸損者の地域生活を視察、私も一緒に行かせていただいた。その情景は今でもよく覚えている。そして現地の障害者、頸損者と交流し、日本での頸損連全国大会にも招いて友好を深め、活動の幅を広げてこられた。また、頸損で人工呼吸器使用者の交流、活動にも尽力された。ふところ深く、温かい人柄から多くの人を魅了し、当事者も支援者もあわせて仲間をつくり、活動を作ってきた。頸損者の地域生活、自立生活の確立を、自身の受傷後の人生かけて取り組んでこられた方だったと思う。私は、三戸呂さんと共に過ごせた時間を、大切に思い、誇りにも思う。三戸呂さん、長い間皆共々にお世話になり、ありがとうございました。

三戸呂克美さんを語る

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

私を頸髄損傷者連絡会において人のお役に立てるよう導いてくださった三戸呂克美さんが、2024年1月21日に旅立ちました。享年73歳。20数年、活動をともにした私は、虚無感と喪失感に襲われています。うまくは書けないかもしれません、私なりの言葉で三戸呂さんを追悼したいと思います。

三戸呂さんが逝去されるまでの経緯を記します。2022年に入ってから体調を崩し、5回も救急搬送されました。その内、2回の心肺停止。そこから在宅復帰したもの、2024年1月17日に6回目の救急搬送で力尽き、その生涯を終えられました。あと2ヶ月で74歳の誕生日を迎えるところでした。呼吸不全が亡くなった原因だと聞いています。

私が三戸呂さんと対面したのは、2023年12月17日が最後でした。訃報を受け、家族葬で送られるところを、無理を言ってお通夜に参列させてもらいました。お通夜が始まる前に、棺に入った三戸呂さんの顔を拝見したところ、笑顔であったことに不謹慎ではありますが笑ってしまいました。娘さんにも「笑っていますよね？」と申し上げたところ「そうですよね。最後に笑顔で逝ったのは、父がこれまで頑張ってこられたからだと思います。みなさんにいろいろとお世話になって、本当に幸せだったと思います。」と仰っていました。

三戸呂さんは、本当に長い時間を一緒に過ごしました。ひとり暮らしを始めるにあたって、どこの地域で暮らすべきかを相談しにいったことを思い出します。私がひとり暮らしを始める2年前に明石市でひとり暮らしをスタートされていたので、制度や社会環境の整った都市部で暮らすか、福祉制度を改善するために地元で暮らすかの助言を求めに行つたのですが、「制度や環境を変えるためにも地元に残るべきだ。宮野がいなくなったら何も変わらないただの障害者には住みにくい町でしかないと。生まれ育った町を変える必要がある。宮野ならそれができる。」と即答されました。「やはり重度障害者が先頭

に立って社会を変えていく必要がある。私にはそんな力があるのかもしれない。」心強く背中を押してもらったと感謝の念を持って地元でひとり暮らしを始めました。しかし、障害福祉課との交渉が全く進まず、想像以上に過酷な生活が2年ほど続いたので、三戸呂さんに泣き言を言ったことがあります。そのとき三戸呂さんは「なんでそんな理解してもらえないような行政の地域で住むことを選んだの？もっと制度の整った都市部で暮らせばいいじゃないか！」と言われたときは唖然としました。同時に気がつきました。「そうだ。この人は生まれ育った町が住みにくかったので、制度が整った明石市を選んだんだった。」と。人を当てにしてはいけない、三戸呂さんから学んだことです。この教えの元に私は粘り強く交渉を重ね、兵庫県内でもトップクラスの制度が整った市に改善しました。もしかすると、三戸呂さんは私を強くするために、あえてボケてくれたのかもしれません。三戸呂さんとは海外旅行によく行きました。最も印象に残っているのは、最初に行った韓国とカナダ・バンクーバーでしょうか。私が頸髄損傷となって初めての海外旅行でしたし、介助者をともなっての初めての長期旅行を経験しました。この2つの旅行が、今の海外旅行や国内旅行に積極的に出かける原動力になっていますし、この旅行で学んだことが、全ての旅行に活かされています。美味しい料理とお酒を楽しみ、とことん旅を楽しむ。そして多くの学びを得る。三戸呂さんとツッコミどころ満載の旅ができたことは、人生の財産になっています。

三戸呂さんとの思い出は語り尽くせません。だからこの辺でやめておきます。またどこかで語ります。

最後に、三戸呂さんのことをイジれなくなったことをただただ寂しく感じるばかりです。「お疲れ様でした」「ありがとうございました」「安らかにお眠りください」という言葉で終わらせるのではなく、私なりの感謝の意を表し「もっと面白く生きますので、見ておいてください！」と伝えたいと思います。

65歳問題学習会に参加して

～65歳になっても主体性のある生活を！65歳の壁をのりこえよう！～

愛媛頸髄損傷者連絡会 会長 井谷 重人

2023年11月25日（土）にTKPガーデンシティ大阪梅田で「65歳問題学習会」と題して、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会（以後「全脊連」と称す）との合同イベントが開催されました。

（てゆうか、このビル、真ん中に高速道路が通ってるんですよ。ビビるわ。）



両団体は抱えている課題に同じものも多く、今回は「65歳問題」を取り上げました。記念すべき初めての合同開催ということで、開会の挨拶は全脊連代表理事の大濱眞さんと全国頸髄損傷者連絡会（以後「頸損連」と称す）鴨治慎吾さんがそれぞれお話になり、司会は頸損連事務局次長の鈴木太さんと全脊連大阪支部長羽藤さんで分担して行いました。

まずは全脊連事務局長の安藤信哉さんより65歳問題の概要説明がされました。続いて頸損連大阪支部の島本義信さんからより身近な具体例をふまえたお話があり、頸損連京都支部の村田恵子さんからは、ジェンダーに関するお話もありました。

私ども愛媛支部の当事者は、重度な人が多いので「65歳になって介護保険優先と言われても、申請することもない、そんなに難しい問題ではない」と軽く考えていましたが、様々な事例を知り、誰もが陥る可能性がある問題で、もっと学ぶ必要があること

がわかりました。

私自身、直接自分に降りかかる問題もあって、とても学びがありました。特に介護保険を併用するとNASVA（自動車事故対策機構）が利用できなくなる事は知らなかったのでとても驚きました。私は24時間介助者が必要ですが、松山市からは16時間しか支給されていません。その他の時間をNASVAがかなり助けてくれているのですが、その助成を受けられなくなったら生活できません。意識を変換して、これから取り組む必要があるなと思いました。

後半紹介していただいた、全脊連沖縄県支部長の仲根さんが作成された「65歳マニュアル」は、問題に直面したときの力強い味方にもなりますし、予防策の参考書としても有効です。一家に一冊持っていてください。

今回の合同イベントは、運動の強い全脊連と情報共有や仲間との繋がりを得意とする頸損連。それぞれの良さを活かしたイベントになったのではないでしょうか？

30年前より制度も整い、障害者団体に所属しなくてもサービスを利用できる社会になってきました。それはとても喜ばしいことなのですが、まだまだ課題は残っています。ある程度便利になったところで運動や活動をする人がいなくなっているのが現状です。両団体が力を合わせて障害者のため、脊髄損傷者のために活動していくことが必要だと思います。

今回のイベントは、両団体が協働していくことを見据えた企画でしたので、懇親会も行われました。皆さん、飲むんですねえ（笑）懇親会会場には、終始賑やかな話し声や笑い声が響き、今後力を合わせていく力強さを感じました。



2024年の6月には合同の全国集会(総会)が開催されます。京都、愛媛と2回目の共同開催になります。松山市で行うので私達が頑張らないといけません 😊

関係者の皆さん、ご協力よろしくお願ひします！

第25回日本ボッチャ選手権大会出場報告

Road to LA 2028

全国頸髄損傷者連絡会 関根 彩香

2024年1月19日～21日、東京の墨田区総合体育館にて、TOYOTA Presents 第25回日本ボッチャ選手権大会兼日本代表選考会が行われました。パリ2024パラリンピックの出場権をかけた戦いでもあり、張りつめた緊張感がありました。私は前年6月に福島で行われた東日本ブロック予選会を勝ち抜き、初めての本大会の出場です。私が出場するBC3クラス女子は、昨年のシード権4名、西・東日本予選通過者4名ずつの計12名が出場します。

初戦は半年前に惨敗したことがある西日本の選手で、リベンジマッチでした。1エンドで3点先取したものの、2エンドはミスが続き4点取られましたが、3エンドで4点取り返し、4エンドは相手を1点で抑え、7-5で勝ちました。

2戦目は東京パラリンピックの銀メダリストで格上の選手であり、負けたら終わりなのでとても緊張しましたが、気持ちで負けない！と自分に言い聞かせてコートに立ちました。3エンド終了時点で2-2の同点。次のエンドを取らなければ終わり…味わったことがない緊張感でした。最後までどちらが勝つかわからない展開でしたが先に相手が投げ切り、自分の1点を確認してノースロー（投球しない）を選択。この試合に勝てたことで4位以内が確定し、来年も日本選手権に出られるシード権を獲得できました。ずっと「シード権獲得」を目標にしてきたので、確定した瞬間は1番嬉しくて、応援してくれるみんなに結果で恩返しできたという思いと同時にすべてのプレッシャーから解放された気がして涙を堪えきれませんでした。コート上で泣くなんて自分でもびっくりでしたが、きっとあの瞬間は一生忘れられないと思います。

3戦目は現在の強化指定選手＝日本代表であり、ランプオペレーター（競技アシスタント）は私のコーチでもある人で、負けられない試合でした。4-1の3点リードで迎えた4エンド、相手に良いところ

に置かれたので逆転されないように守りにいったのが功を奏して4-3で勝ち、決勝戦へと進みます。

いよいよ決勝戦。相手は昨年のチャンピオンでありワールドランキング11位という雲の上の存在です。確実に決めてくるプレーは流石で4-1で負け、銀メダルでした。実力の差なので練習に励みます！

負けは悔しいけれど、正直決勝まで来られるときはきっと誰も想像していなかったでしょう(笑)決勝戦の緊張感も、静寂の中で鳴り響くシャッター音を浴びることも、決勝のコートに立てる選手だけの特権です。そんな雰囲気を味わえて楽しかったです。応援してくださった皆さん、ありがとうございました。来年は追われる側になるのでプレッシャーもあると思いますが、決勝でリベンジしたいと思います。

来年の日本選手権は1月17日～19日、愛知県スカイホール豊田で行われます。お近くの方はぜひ会場に見に来てください。

8月29日からはパリパラリンピックがはじまります。出場権を得ているクラスもありますのでぜひボッチャ日本代表、通称火ノ玉ジャパンを応援していただけだと嬉しいです。



ボッチャの魅力

第25回日本ボッチャ選手権大会を観戦して

全国頸髄損傷者連絡会 宮野 秀樹

「ボッチャ」をご存じでしょうか？障害のある者であれば一度は耳にしたことがある障害者スポーツだと思います。2021年8月に開催された東京パラリンピックでテレビ中継され、日本チームが銅メダルを取ったこともあり、多くの人が今まで以上にどんな競技か周知されたのではないでしょうか。私自身も以前から知ってはいましたが、そこまで関心が高いわけでもなく、「こんなスポーツがあるんだ」程度のものでした。しかし、当会事務局長補佐の関根彩香さんが、2024年1月19日～21日に東京都の墨田区総合体育館にて開催された「TOYOTA Presents 第25回日本ボッチャ選手権大会」に出場するのを応援に行つたことで、急激にボッチャに対する関心が高まりました。私なりに感じたボッチャの魅力を報告したいと思います。

ボッチャは、パラリンピックやスペシャルオリンピックなどで競技として行われている、障害者スポーツです。身体的な能力や障害の程度に関係なく、あらゆる人が楽しむことができるのが魅力のひとつではないでしょうか。日本ボッチャ選手権大会は個人戦でしたが、チームでもプレーされています。相手のボールに対して戦略的にプレーする必要があり、正確な投球や戦略的構成がとても重要なことから、競技には技術を磨くことが要求されます。そして、コミュニケーションも競技に勝利するためには大変重要であり、チーム戦であれば、メンバー間のコミュニケーションや協力が勝敗を分けることに大きく影響するようです。個人戦でも重度のクラスになれば、競技者とランプオペレーターとのコミュニケーションが不可欠であり、チームワークが重要なスポーツであることは間違ひありません。また、ボッチャはフェアな競技であり、選手同士の相互尊重や精神的な成長を重視されているようです。競技中のマナーやエチケットも、スポーツmanshipを育む上では重視されています。

これらの要素が組み合わさって、ボッチャは障害のある人々にとってだけでなく、あらゆる人々にとっても魅力的なスポーツとなっています。

実際に競技を観戦して驚きました。何に驚いたのかというと、まず私のボッチャのルールに対する知識のなさに愕然としました。テレビなどで観戦して少しは知っているつもりでしたが、実際に見てみると、目の前で何が繰り広げられているのか全くわかりませんでした。そこで、競技には参加していなかったボッチャの選手でもある関根さんのご友人に解説してもらって、初めてボッチャのルールがわかりました。そして、このボッチャが大変頭を酷使する頭脳的なスポーツであることに気づきました。こちらから見れば、「ここでこう投球すればよいのに…」と思う場面でも、実際の競技者は、私の考えているコースとは全く違うところに投球します。解説してもらったところ、その次のボールの配置や、ジャックボールに近づけるため、相手のボールを利用したり、相手の投球コースを妨害したりして、自分に有利な位置取りを何手か先まで読み取りながら競技していることがわかりました。見ているだけでもかなり疲労を感じるほど頭を酷使しますので、実際の競技者はもっと頭脳をフル回転しているはずです。相手の投球コースを読み切ったり、自分の予測がピッタリはまったとき、アドレナリンが大量に分泌されるのでしょうか。それがこの競技の魅力なんでしょう。見ているだけでも興奮したので、競技者は常に冷静を保ちながらも気分を高揚させながら競技しているのだと思います。

そしてもっと驚いたのが、関根さんの表情でした。普段の優しい顔が一変して、凜々しく真剣な表情でプレーしている姿はカッコイイとも言えますが、緊張感溢れる厳しい表情に、関根さんを知っている私まで緊張したほどです。ミスをしてポーカーフェイ

スではあるけれども悔しがっている表情、感情が高ぶったのか涙を流している表情も見ました。勝利してランプオペレーターと心から笑っている表情も見ました。関根さんをこんな表情にさせるボッチャって、すごいスポーツなんだと感動しました。

この選手権は、関根さんにとってとても重要な大会らしく、東日本ブロック予選会を勝ち抜いて選手権に出場するのは初めてと聞きました。この選手権で好成績を残せば、パリで開催されるパラリンピックに出場できるかもしれない、ということでした。

「上位にいけそうですか？」と尋ねたところ、少し顔がこわばりながら「がんばります！」とのこと。言葉は少な目でしたが、闘志はみなぎっている。密かな決意が伺えました。

初戦は、私から見れば安心して見ることができるくらい、楽な試合展開だったと思いました。本人に聞いてみると、それでも緊張していたらしく、少しばかりミスをしたとのこと。プレッシャーに打ち勝ち勝利したので、とても安堵したような笑顔でした。2戦目は翌日にはあったのですが、解説してくれたご友人に聞いたところ、東京パラリンピックで銀メダルの成績を収めたかなりの強豪選手とのことでした。試合展開は大変白熱したもので(私にはそう見えた)、正直、最終エンドが終わった時点では、素人の私はどちらが勝ったのかよくわかりませんでした。ただ、ご友人が「すごい！」と感嘆の言葉を発したので、関根さんが勝利したことを確信しました。この試合で負けたらそこで終わりと聞いていたので、私も介助者もおしつこをちびりそうになるくらい緊張しながら応援しました。勝利したとわかった瞬間、めちゃくちゃ大声で「おめでとう！」と叫んでいました。よく見ると、関根さんは泣いていたように見えました。

次の試合は、現役の日本代表の選手と当たること。私の緊張感はマックスに達していました。それでも関根さんは難なく(私にはそう見えた)その強豪を撃破していました。

決勝戦は最終日。相手はどうやらワールドランキングでも上位に入るすごい選手とのことです。決勝戦は、アリーナ席を解放することで、もっと近くで応

援しようとアリーナ席に行きました。間近で見るボッチャは、さらに興奮と緊張感を味わうことができました。高度な技術が繰り広げられていたので、正直、試合展開はよくわかりませんでしたが、相手の選手がエグいコースに投球したり、関根さんのコースを巧みに妨害しているのを見て、相当な上級選手であることは認識できました。結果は、勝利に惜しくも手が届かず、準優勝に終わりました。それでも準優勝はすごい成績です！本当によくがんばりました、おめでとう！

試合後の関根さんに声をかけたところ、喜んではいたものの、やはり悔しそうでした。「実力差が大きいです」と言ってはいましたが、闘志は消えてはいないと確信しました。これからも関根さんの活躍に期待しています。

私もすっかりボッチャの魅力にはまりました。これからも大会には、もっとボッチャのルールや戦略などの知識を高めて応援に臨みたいと思います。



初戦を突破しての笑顔



真剣な表情、白熱した試合

第7回災害リハビリテーション支援研修会

大規模災害時、重度障害者が生き残る道

兵庫頸髄損傷者連絡会 橋 祐貴

はじめに

1月27日に第7回災害リハビリテーション支援研修会がオンライン(zoomミーティング)で開催されました。今回は「大規模災害時、重度障害者が生き残る道」をテーマに、平成30年北海道東部胆振地震発生時の対応について、2名の講師より講演がありました。1月1日に能登半島地震が発生した直後の開催だったこともあり、当日は障害当事者をはじめ、医療従事者や福祉に携わる人など50名近くの参加がありました。

研修会の様子

大阪急性期・総合医療センターの土岐明子さんの開会挨拶の後、前半では株式会社フィリップス・ジャパンの木下さんより、北海道東部胆振地震での停電時の対応について講演がありました。

フィリップス・ジャパンでは災害発生時における行動指針を定めており、患者の安否確認や物資の搬送などに活用しているそうです。北海道東部胆振地震の時は利用者の安否確認に数日かかったそうです。現在は呼吸器利用者の安否確認向けに「ANPY」システムを導入しており、大規模災害の発災時に利用者宅の通電状況や復旧状況がオンラインで確認可能になりました。また、端末にはGPSが内蔵されているので、自宅から避難するときに端末を持参することにより利用者がどこに避難しているか分かるようになり、導入前よりもスムーズに安否確認が行えるようになったということも話されていました。

NPO法人ホップ障害者地域生活支援センターの杵渕なつきさんからは、北海道胆振東部地震発生後の大規模停電時に人工呼吸器を使用されている方はどのように過ごすことになったのかについて報告がありました。北海道胆振東部地震では災害発生後に大規模な停電が発生しました。在宅障害者への安否確認や必要物資の搬送を行いましたが、いつまで停電

が続くのかわからず不安だったと話されていました。利用者の事例も紹介され、停電で電動ベッドの操作ができなくなったり情報を得ることが難しくなった、マンションの給水ポンプが停止したことでトイレを使えなくなり、水分摂取を控えて体調を崩したケースもあったそうです。北海道胆振東部地震を経験して見えてきた課題として、避難所までの移動手段の問題や避難する場所の問題、情報の入手方法の問題を挙げられました。医療機関は頼りになるが必ずしも受け入れてくれるとは限らないのでできる限りの用意は必要と話されており、私自身も災害が起きた時のシミュレーションをもう一度しておく方がいいなど感じました。

さいごに

能登半島地震が発生した直後の開催だったので、災害が起きた時に自分はどうするべきか、災害に備えてどんな準備をしておくべきかを改めて考えてみるよい機会になりました。特に今回の講演では大規模停電についての話が印象に残りました。私も停電時の備えはできていないので、災害に備えてどんな備えが必要かを考えておくべきだと感じました。また、マンションの場合は電気だけでなく水道も使えなくなるケースがあることも話されていたので、飲み水以外の水の確保についても考えておく必要があるのかなと思いました。



第11回 To be yourself 「排泄」1

兵庫頸髄損傷者連絡会 橋 祐貴

はじめに

2月17日に第11回目のto be yourselfがオンライン(zoomミーティング)にて開催されました。今回は「排泄」をテーマに、最近新しい排泄方法として広がりつつある経肛門的洗腸療法について、専門家から解説を行ってもらい、実際に体験してみた当事者からの報告がありました。

研修会の様子

鴨治会長からの開会挨拶の後、はじめに宮野事務局長より頸髄損傷者の排泄の現状について簡単な説明がありました。続いて兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院泌尿器科の乃美昌司先生より経肛門的洗腸療法についての解説がありました。

頸髄損傷者の排便管理方法としては、下剤や浣腸・摘便などの初期保存療法やストーマー増設のような外科治療がありますが、初期保存療法と外科治療の間を埋める第3の管理方法として広がりつつあるのが経肛門的洗腸療法だそうです。すでに欧米では標準的に行われていて、国内でも脊髄障害で3カ月以上の保存的治療で改善しない場合は保険適用になるそうです。手術を必要とせず保険適用で費用負担も少ないので、ストーマー増設と比べると導入までのハードルは高くないよう感じました。

ユーザーからの報告

続いて実際に経肛門的洗腸療法を行っている兵庫頸髄損傷者の土田浩敬さんより報告がありました。これまで週に2回訪問看護で浣腸と摘便を行っていたそうですが、排便に時間がかかり排便後の疲労感も大きかったそうです。これまでに排便の問題を解決するために様々な方法を試してみたもののうまくいかず、今回経肛門的洗腸療法を試してみることにしたそうです。

経肛門的洗腸療法を始めてみてからは以前よりも排便時間が短くなり、排便後の疲労感も軽減された

と話していました。経肛門的洗腸療法を取り入れてからまだ1カ月経っていないと話されていましたが、今のところ特にトラブルはなくうまく使用できているそうです。一方で、今後の課題として外泊時の洗腸をあげられました。

その後のディスカッションでは、洗腸にかかる時間や洗腸後の疲労感について参加者から質問がありました。訪問看護事業所が洗腸に対応できるかについても質問がありましたが、断られたケースもあるもののほとんどは対応してもらっているそうです。洗腸にかかる費用負担についても、重度障害者医療費助成を利用して負担額を抑えることができると回答がありました。

さいごに

経肛門的洗腸療法という方法があることは以前から知っていて興味があったので、今回専門家からの解説やユーザーの体験談を聞くことができたのはよかったです。私自身も現在行なっている排便管理办法に課題を感じていて、何か代わりになる方法がないか考えていたところだったので、今後の選択肢の一つに経肛門的洗腸療法を入れてもいいのかなと感じました。



車椅子使用者の円滑な航空機利用について

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1. はじめに

私たちが生活する上で“移動すること”は必ず行われます。車・バス・電車・船、と移動する手段は様々ありますが今回は“飛行機”について、情報共有、意見交換する場が設けられました。

テーマは「車椅子使用者の円滑な航空機利用について」電動車椅子を使用している者の立場から報告いたします。

2. 概要

日 時：2024年2月23日（祝・金） 13:00-15:30

場 所：兵庫県神戸市中央区雲井通7-1-1 ミント神戸 17F 神戸学院大学神戸三宮サテライト

参加費：無料

内 容：(電動) 車椅子の航空機搭載に関する課題について

発言者：剣持悟 ((一社) 日本リハビリテーション工学協会関西支部)

宮野秀樹 (全国頸髄損傷者連絡会)

半田隆志 (埼玉県産業技術総合センター)

アメリカの国内規格と制定の動きについて

質疑応答

3. 円滑な航空機利用について

みなさん“飛行機”についてどのようなイメージを持たれているでしょうか。一昔前までは、大変、想像がつかない、車椅子が壊れてしまうのではないか。どちらかと言うと、ネガティブなイメージが先行してしまう印象でした。しかし便利な福祉用具や航空会社のサービスの進歩などによって、以前に比べれば大分身近な乗り物になってきたのではないかと感じます。そんな航空機を利用する様子や情報を、全国頸髄損傷者連絡会・事務局長の宮野氏から報告がありました。

飛行機を利用する中で、様々な制約に阻まれて円

滑に利用するのが困難な場合があります。今回は制約が多そうな、プロペラ機に乗って宮古島へ行かけた様子が報告されました。

プロペラ機の場合はコンテナに電動車椅子が乗らないことから、今まで利用できないと思われていました。ところが“電動車椅子がコンテナに入る機材がある”ということを報告されて航空機利用の可能性が広がったとありました。また、飛行機に乗る場合、必ず事前に電動車椅子の情報を、航空会社に伝えておく必要があります。車椅子を貨物に預ける際には、コンテナに入らなければいけないので車椅子のサイズを伝えます。次に車椅子のバッテリーの種類を伝える必要があります。国土交通省は・輸送中の振動などにより、電源が入り動き出す可能性がある・輸送中の気圧や温度の変化などにより、蓄電池内にある硫酸等の電解液が漏れ出す可能性がある・輸送中の衝撃などにより、蓄電池が発火する可能性がある。コレらの危険性があることから、必ずバッテリーの情報を伝えなければならないのです。防漏型蓄電池、いわゆるシールドバッテリーもしくはドライバッテリーであることが条件です。ただ、このような情報を事前に伝えているにもかかわらず、チェックイン時にバッテリーの確認に時間を費して円滑に利用できない事例も報告されました。

4. まとめ

初めて飛行機を利用される方やコロナ禍以降、久しぶりに利用される方、常時利用される方にとっても有意義な時間になったのではないでしょうか。多くの方が航空機を利用されることによって、より円滑に手続きを済ませてストレス無く利用できる未来が近づいていると感じました。頸損者が気軽に空の旅を楽しめる世の中が、すぐそこまで来ているのです。

リハ工学協会乗り物 SIG 勉強会報告

～今を楽しむ電動車いす～

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾



【パネルディスカッション】

◎「パネルディスカッション 今を楽しむ電動車いす」が、2024年3月10日(日)13:30～、東京の練馬区立区民産業プラザ3階研修室にて、一般社団法人日本リハビリテーション工学協会の専門部会である「乗り物 SIG」によって行われた。

☆乗り物 SIGとは

乗り物 SIGは、生活に不便を感じる小児、大人、高齢者、一時的な障害をお持ちの方などの移動や乗り物全般、公共交通のバリアフリー、近未来のモビリティなど、移動環境を取り巻く様々な課題について、会員相互で年齢、立場を超えて情報交換し、論議して情報を求めている方々への的確な情報伝達を目的に活動するグループである。

◎当日のプログラム

はじめに、乗り物 SIGの説明や代表者麿澤氏による挨拶があり、最初の登壇として全国自立生活センター協議会（JIL）副代表今村氏が「当事者参画で実現したこと」として今までの活動内容や活動成果の報告があった。頸損連絡会を支えてきた故三澤氏や故今西氏や中西氏などが活躍されていた頃などの話なども出た。

次に、「可能性の引き出し」と題して、電動車いす専門店（株）コボリン浅見氏より、我々にとって重要な車椅子に関して、事業者としての意見や当事者

との交流など、様々な話がされた。特に、姿勢変換機能つき電動車いすについての紹介で、ユーザーの生活や周りの関係性が変化した事例があった。

続いて、「どっちが快適？飛行機 or 新幹線 電動車いすユーザーが検証してみた…」が宮野氏と麿澤氏より報告された。これは、東京駅から博多駅まで宮野氏は飛行機経由で、麿澤氏は新幹線経由で同時に出発して各々のルートでの良い点悪い点などを検証してみたという企画であった。駅から駅ということで、今回は新幹線経由の方が若干早かったということ。飛行機に関しては、会社にもよるが積み込みや梱包もしっかりとしてくれるところもあるということであった。費用は飛行機が高いという結果だった。時と場合によるが、どちらが良いということではなく、利用の内容によって各々が選択すれば良いのではということであった。

最後に、パネルディスカッションがあった。パネリストは、先に登壇された宮野氏、浅見氏の他に、簡易電動車いすのまま1BOXカーを運転をされる小宮山氏、サンライズメディカルジャパン（株）熊谷氏の4名だった。その中では、車いすは自分の足なのか乗り物なのか、個々の車いすのこだわりなどの話が出た。小宮山氏の簡易電動車いすのまま運転できる車の話がとても興味深かった。



【終了後会場外にて】

65歳問題 全国脊髄損傷者連合会とイベントを開催して

～ 抱える課題は同じです ～

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

はじめに

機関誌で65歳問題を取り扱い始めて6回目の記事になりますが、他団体でも65歳問題は関心が深く問題提起が必要です。

2023年11月25日（土）にTKPガーデンシティ大阪梅田で「65歳問題学習会」と題して、公益社団法人全国脊髄損傷者連合会との合同イベントが開催されました。両団体は脊髄損傷の方々が会員として多く所属される団体で、個々に活動を行ってきました。ここ数年共同でイベントを開催し、今回は初の勉強会を大阪で開催しました。

合同勉強会を開催して

合同勉強会で感じたことは、やはり必要な情報が届いていないことでした。

前回、車椅子の給付について補装具給付と介護保険は別物で、介護保険移行後に車椅子の給付は受けすることが出来ることをお伝えしました。しかし、介護保険利用の参加者から、介護保険レンタルの車椅子を利用して体に合わず困っているという発言がありました。全国脊髄損傷者連合会では以前から発信していた情報でしたが、届いていなかったようです。

最近介護保険へ移行された方、移行を控えている参加者からは切実な現状が語られました。移行された方からは、介護保険優先ですから移行してください（署名してください）、今までとは何も変わりませんと説明され、署名を行い申請すると、話は勝手に進みケアマネージャーがプランを立て費用負担が増えたということでした。これから移行を控えている方からは、行政の担当者からは介護保険優先です。移行以外選択肢はない、皆が移行しているという説明が続いているとのことでした。生活を変えたくないと説明するも、行政担当者の訪問、相談支援専門員の訪問が続いているということでした。切羽詰ま

っている方も参加されていて、あと数日で65歳になるのだが、どのように動いたらよいのかというものでした。

現状の生活を続けるために

会場からの様々な現状が語られる中、現状の生活を続ける最善の方法は、介護保険には移行せず障害福祉サービスを使い続けるということでした。

会場には多くの65歳以上で障害福祉サービスのみで生活する当事者がいらっしゃいました。その方々からは、「行政には障害福祉サービスのみを利用することだけ伝えただけだった、その後は何もいつてこない」「毎月今後の利用確認の問い合わせがある」「交渉は大変でこっちの意見は聞いてくれなかつた」など、熱い意見が飛び交いました。

65歳問題に備えるために

前回、65歳問題に備える情報を自分で持つことの大切さをお伝えした。多くの方々の実状を聞くと、必要な情報にも地域による違いがある。

地域によっては何も問題とならず、65歳以上でも障害福祉サービスのみを利用し続けている人もいる。しかし、65歳以上で障害福祉サービスのみを使い続けることが地域で一例目となるとそうはいかない。ここで報告してきたような介護保険優先の説明が、行政・相談支援専門員から当然のように伝えられてしまう。障害福祉サービスのみの生活を一人で実現することは、かなりハードルが高いと感じる。

改めて自分の住む地域の行政や相談支援専門員やケアマネージャーと情報を共有しながら進めるかが大切と感じた。福祉関係者の中には、もうきちんと選択できる時代になっているという方もいるため、私たちも日々勉強する姿勢を続けていきたい。

パラダンススポーツ（車いすダンス）

電動車いすユーザーから健常者まで

一般社団法人パラダンススポーツ協会

広報 山本 修二郎

【日本パラダンススポーツ協会について】

一般社団法人日本パラダンススポーツ協会（JPDSA）（以下、協会）は、国内のパラダンススポーツ競技統括団体として、障がいのある人が＜分け隔てされることのない自由で公正な「共生社会」の実現＞を目的に2019年11月に設立しました。障がいの有無にかかわらず、あらゆる個人がダンスを通じて生き生きとしたスポーツの楽しみを共有できる場を提供することを使命としています。

【協会概要】

協会は、パラダンススポーツの国内の統括団体として発足し、2021年6月に日本パラスポーツ協会（JPSA）へ登録、同年11月に日本パラリンピック委員会（JPC）への加盟が認められた団体で、パラダンススポーツの振興、普及、競技者のサポートを行う目的で一般社団法人として設立されました。我々は、身体的な制約がある方でもダンスを通じてスポーツの楽しさや感動を体験できることを信じており、協会は、日本国内外でのパラダンススポーツの競技会やイベントを支援し、パラダンススポーツが一般社会においてもっと認知され、尊重されることを目指しています。

【パラダンススポーツの魅力】

パラダンススポーツは、ダンスの美しさとスポーツの精緻な技術が融合した独自のスポーツです。様々なジャンルやスタイルがあり、競技者は音楽に合わせて優雅な動きを披露します。その美しさと感動は、観客を引き込み、競技者自身にも心の豊かさをもたらします。音楽・表現性・パートナーとの

コラボレーションが問われる芸術的スポーツです。また、車いすの特性から生まれる個性的で美しい表現は、パラダンススポーツの魅力の一つでもあります。また、障害のある人とない人が同じ選手として舞台に立つことができる競技カテゴリーがあるのも特徴です。



写真:2023年8月に東京で行われた世界大会

提供:日本パラダンススポーツ協会

【パラダンススポーツのルール】

パラダンススポーツは、音楽と表現性、そしてパートナーとの協調性が重視される芸術的スポーツです。競技者は「ドライバー」（車いす使用者）と「スタンディング」（立って踊るパートナー）に分けられ、ドライバーの障害に応じてクラス1、クラス2に分類されます。

競技カテゴリーは以下の4つに分けられます：

1. **COMBI**：ドライバーとスタンディングの男女カップルで踊る。10種目（スタンダード5種目＆ラテン5種目）。
2. **DUO**：二人のドライバー（男女カップル）が一緒に踊る。10種目（スタンダード5種目＆ラテン5種目）。

5種目)。

3. **SINGLE**：ドライバー（男性・女性）が一人で踊る。5種目（スタンダード2種目＆ラテン3種目）。

4. **FREE STYLE**：ドライバーがスタイルを自由に選択できる。競技種目はフリー。

各カテゴリーで複数組の競技者が同じフロアで踊り、審判の採点により順位が決定されます。競技用の車いすは特殊な設計で、回転や素早いターンが可能です。これらのルールと規定は、ワールドパラダンススポーツ（WPDS）により定められています。

また、パラダンススポーツは電動車いすでも参加できますし、コンビの競技であれば、手の動きが弱い方でもスタンディングの選手と踊ることで、早く動く方法もあります。つまり、頸髄損傷の方でも十分に活躍できる競技でもあるのです。



写真：電動車いすの選手も世界大会で入賞しました

提供：日本パラダンススポーツ協会

【どこで競技を見るか】

日本国内では、パラダンススポーツの競技会やデモンストレーションが様々な場所で行われています。協会のウェブサイトやSNSページでは、最新のイベント情報や競技会のスケジュールが随時更新されています。また、各地のパラダンススポーツクラブやイベント主催者にも積極的に連絡して、競技を楽しむための情報を取得することができます。昨年は当協会主催で、国立代々木体育館で世界大会を開催し、

日本代表選手8名をはじめに、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジアから18か国100名以上のアスリートが2日間に渡って競技を行いました。

【協会のサポート】

協会は頸髄損傷者を含む障がい者の方々に対して、競技への参加支援やトレーニングのサポート、情報提供も行っています。また、各地のパラダンススポーツ（車いすダンス）クラブや指導者とも連携し、より多くの方にパラダンススポーツの楽しさを広めるためのプログラムも実施しています。



写真：2023年11月イタリアでの世界選手権にて

提供：日本パラダンススポーツ協会

【最後に】

日本パラダンススポーツ協会は、頸髄損傷者の方々にもっと多くの情報や機会を提供し、パラダンススポーツが幅広い方々に参加いただけることを心より願っています。我々のウェブサイトやイベントへの参加を通じて、新しい挑戦と共に、楽しいパラダンススポーツの世界と一緒に探求していきましょう。

協会ホームページ URL: <https://jpdsa-h.org/>



協会ホームページ QRコード

愛知支部活動紹介

愛知頸髄損傷者連絡会 実行委員

◎はじめに

愛知頸髄損傷者連絡会は頸髄損傷者または同じ気持ちを持つ仲間が集まって、お互いに持っている情報を交換したり、いろんなところへ出かけて遊んだり、買い物をしたり、日頃やりたいと思っていることをみんなで楽しくやろう、そして、頸損者であるが故に抱えている問題をみんなで話し合い、解決していくことを目的として、愛知県・三重県の仲間とともに平成11年に設立いたしました。

◎役員会・実行委員会

事務局のある自立生活情報センター内で、ほぼ毎月1回18時から開催しております。直近の行事の確認や今後の活動の内容、会費入金状況など様々なことを検討しています。終了後には近くのお店で会食し、雑談の中から活動への新たな発想や問題点に気づく機会となっておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインでの開催となっております。

◎定例会

会の発足以来、ほぼ毎月、定例会として様々な活動を行っております。新型コロナウイルス感染拡大により年次総会、学習会、忘年会など、殆どがオンラインを利用しての開催となりました。2023年2月には前年急逝された元会長 近藤実男さん、前会長近藤光利さん、お二人の偲ぶ会をオンラインで行いました。5月から新型コロナウイルスが感染法上の「5類」移行を機に、役員会で定例会を対面で行うかを検討し、対面に踏み切りました。3年ぶりの対面企画として「ランチミーティングとウェルフェア2023見学」を開催し5人が参加しました。8月には猛暑の夏でも涼しく快適な「トヨタ産業技術記念館」を見学、館内の少しリッチなレストランでランチを食べながら参加者7人で交流もできました。

◎支部総会

毎年6月に総会を開催しております。総会では会長の挨拶の後に議長を選出し、活動報告や決算報告、

監査報告があり、次に今年度の活動計画や予算についての承認を受け、そして新役員の表明などが行われます。総会後には出席者との意見交換を行っております。近年、コロナ禍の中では、書面による総会の開催となりました。

◎学習会

年度後半には学習会を開催し、これまでにリハビリ科医師をお招きして、頸椎損傷について学びました。また、退院後の生活行為の自立について、当事者と介助支援者から具体的な取り組みを学びました。そして、今年度2月にオンラインとYouTubeを利用して、再生医療の学習会を開催し6人が参加しました。日本せきずい基金のシンポジウム「Walk Again 2023 iPS細胞を用いた脳と脊髄損傷の再生」から、岡野英之慶應大学医学部教授の講演「脊髄再生研究20年の歩みとこれから」を視聴し、看護師・作業療法士からの助言を得た後に、参加者全員で感想や意見交流を行いました。



◎合同BBQ大会

これまでに頸損・岐阜連絡会との合同企画として岐阜県郡上市の釜ヶ滝マス園でのマス釣り大会や関市のふる里農園でのBBQなど、度々開催をしておりましたが、コロナ感染の影響もあり、この間、企画自体が遠ざかっておりました。今年度から対面での取り組みを開始し、合同企画で「バーベキュー懇親

会」を開催しました。今回は名古屋市港区のららぽーと名古屋アクルス内の野外BBQ場で25人と多くの参加がありました。利用した会場は食材をはじめ、ガスコンロやトングや食器等の備品も準備されていて、手ぶらで参加ができました。秋晴れの好天にも恵まれ、久しぶりの他支部との交流で親睦を深めることができました。



◎春のレクリエーション

愛知支部の活動の中で、参加者が一番多い「春だ！苺だ！バーベキュー！」を毎年4月に開催し、会員とその家族や友人たちと知多半島のハウス農園で苺をほおばり、バーベキューは三河湾を眺めながらお腹いっぱい海の幸を堪能し、春を満喫しました。コロナ感染以降、年度初めの企画が残念ながら、開催ができておりません。



◎秋のレクリエーション

毎年9月～10月に秋の気配を感じながらこれまでに宿泊を伴う企画では東京方面へ「夢がかなう場所」ディズニーシーや浅草と押上界隈(スカイツリー)の散策を行いました。また、関西方面は大阪の道頓堀

(吉本新喜劇)や通天閣界隈の散策、串カツやたこ焼きなど、大阪名物の食べ歩きを楽しみました。古都京都では八坂神社の散策や太秦映画村で時代劇の世界を堪能しました。そして、岐阜高山では古い町並みを散策しました。訪れた地の支部の仲間とも交流ができました。令和2年以前は公共交通機関(電車、バス)を利用して、近郊への日帰り旅を実施しましたが、コロナウィルス感染から4年余り開催ができておりません。



◎忘年会・新年会

毎年1年の締めくくりとして開催をしておりました忘年会ですが、コロナ感染拡大に伴い、対面からオンラインでの開催をしてきましたが、今年度から対面で開催し5人が参加しました。鯛のしゃぶしゃぶや鮪や鯛のお造りに舌鼓を打ちながら、近況報告や今後の定例会で行ってみたい所などを語り合いました。また、新年会はここ数年のコロナ禍の中で開催には至っておりません。

◎最後に

コロナ禍から明けて、徐々に対面での交流会を開催できるようになり、懐かしい顔や新しい顔を見られるようになりました。ICTを活用したWEB会議システム等、技術の進歩による恩恵を移動困難者である我々頸損者が受ける一方で、対面しない寂しさのような感情もありました。会って顔を見て話して分かる心の交流は、便利な道具に取って代わるものではないと気付かされました。今後も対面での交流会を開催していきたいと思います。



NPO法人ケアリフォームシステム研究会
第21回 全国大会 in 兵庫

介護リフォームの **丘** と一緒に



できた!! がいっぱいの 住まいづくり



～ケアリフォームの実例と
障害者のファイナンシャルプランニング～

とき

2024年 7月 6日 (土)

9:30~16:00 (9:00会場受付)

ところ

加古川商工会議所 1階展示ホール
兵庫県加古川市加古川町溝之口 800番地

体が不自由な方とそのご家族へ向けた、無料セミナーを開催いたします。

「介護」「車椅子」「住まい」「お金」

をテーマに、介護リフォームの専門家として事例や経験をお話しします。



加古川駅



加古川水管橋



国宝 鶴林寺

私たちは、体が不自由な方とその家族の住まいを第一に考え、
自立（律）や介助者の介護負担を軽減するための住環境の提案を目的としている研究会です。
「出来なかったこと」「難しかったこと」「諦めていたこと」を住まいの工夫で改善し、
災害時も安心して身を守れる住まいについてお話しします。



NPO法人 ケアリフォームシステム研究会

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○お知らせ（訃報）

2023年11月11日（土）、全国頸髄損傷者連絡会の会長を務められ、京都支部の会長も務めていただいた小森猛氏がご逝去されました。全国の頸髄損傷者をはじめ重度の障害がある仲間のために活動し、誰もが安心した生活が送れる社会を目指し制度の変革に邁進され、そして会の運営にも大変なご尽力をいただきました。故人の功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○秋の代表者会議開催報告

2023年9月3日（日）に全国代表者会議（秋）2023を岡山国際交流センターにおいてハイブリッドで開催しました。会場9名、オンライン12名が参加しての代表者会議となりました。

会議では、6月3~4日（土～日）に開催した全国総会・兵庫大会の実施報告がされました。台風の影響による大雨のため、公共交通機関が麻痺し、関東方面から来られる予定であった参加者が足止めされたトラブルがあり、我々の移動が公共交通機関に大きく依存していることを痛感し、自然災害などのトラブルに見舞われた時に、速やかに対応できる柔軟性が求められることを学んだ大会でした。トラブルはあったものの、初日のシンポジウムには151名が参加され、2日目は車椅子ユーザー25名と、支援者とボランティアを含めて79名で「姫路城登城ツアー」を実施するなど、大盛況の全国総会となったことが担当した兵庫支部から報告されました。兵庫大会の総会が2つの議案を残して終了したため、臨時総会を2023年7月23日（日）に開催し、決議できなかった議案が承認されたことも報告しました。その他にも、「65歳問題」をテーマとした学習会を、全国脊髄損傷者連合会と共に2023年11月25日に開催することや全国頸髄損傷者連絡会のマーリングリストを新設することが承認されました。また、頸損解体新書2020発行から2年が経過し、日本リハビリテーション工学協会との覚書では「3年は電磁的方法による公開はしない」と取り決めを交わしましたが、情報は常に新しいものを提供するべきだとの声も多いため、日本リハビリテーション工学協会の同意を得て、WEBでの公開を早めることにしました。日本リハビリテーション工学協会の理事会からも承認を得ていますので、近日中には当会ホームページで公開します。

次回全国代表者会議（春）2024は、2024年3月3日（日）に岡山国際交流センターにおいてハイブリッドでの開催が決定しています。

○全国脊髄損傷者連合会・省庁交渉報告

2023年10月2日（月）に参議院議員会館B104会議室において開催された公益社団法人全国脊髄損傷者連合会の令和5年度省庁交渉に、全国脊髄損傷者連合会からお声かけいただき、当会から会長・鴨治と事務局長・宮野が出席しました。当会も要望している「介護保険と障害福祉サービスの選択制」「通勤中と職場内の重度訪問介護サービスの活用」「通学中と学校内の重度訪問介護サービスの活用」「入院中の重度訪問介護の利用を区分4～区分5に拡大」「脊損や頸損を受け入れられる医療機関の確保」「在宅復帰プログラムを備えた病院とリハ施設の整備」「航空機に搭乗するときの電動車椅子のバッテリー確認の標準化」「航空機のバッテリー確認で航空会社と車椅子メーカーの連携強化」が要望書に入れられ提出されました。担当部局からの回答は、満足のいくものではなく、問題の認識に大きな差異を感じました。あきらめずに今後も継続して交渉していく必要があります。当会としては、会員の心豊かな生活の実現のために、関係機関への要望活動に積極的に取り組む所存です。

お役立ち！？

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治慎吾

今回は、小物関係を集めてみました。

実際使って好評な物や、会員さんからの情報、使っている物からピックアップしました。

◎最硬(さいこう)のしなやか竹綿棒(50本入)



入数 50本入

綿部 (材質) コットン100%

(色) 白

(大きさ) ふつう

(形状) 水滴型+水滴型

軸 (材質) 竹

(太さ) ふつう

仕様1 抗菌剤フリー

1本個別包装 (50本入)

価格：208円（税込）Amazon調べ

◎しっかりしていて、耳の中で形が崩れず、曲がり辛いです。また、個包装なので衛生的です。

平和メディク株式会社

〒506-0041 岐阜県高山市下切町 180

フリーダイヤル：0120-380-512/TEL：0577-33-0511(代)

<https://www.heiwamedic.com/>

お問い合わせは HP 内のお問い合わせフォームからお問い合わせください。

◎たて・よこストレッチ Nフィットシーツ



伸びる素材でぴったりフィット！厚さ 38cmまで対応。敷ふとんにも、マットレスにも使える！

◎分厚いエアマットでも使えています。

【対応サイズ】幅約 85～100cm×奥行約 200～210cm×高さ約 38cmまで

素材（タイプによって色々あります）

綿 ポリウレタン ポリエステル レーヨン等

価格 2490～4490円（税込）

抗菌防臭・防ダニ加工・吸水速乾等様々な仕様があります。詳細はニトリ HP 等をご参照ください。



ニトリネット

電話によるお問い合わせ

受付時間 10:00～18:00（年末年始を除く）

固定電話から 0120-330-330

携帯電話から 0570-064-710

<https://www.nitori-net.jp/ec/>

お問い合わせは HP 内のお問い合わせフォームからお問い合わせください。

◎車椅子用サイドバッグ



色々な車椅子のひじ掛けに付きます。

※サイズ | 高さ : 19cm、幅 : 33cm、マチ幅 : 4cm

(サイズをメーカーに電話確認したところ)

価格 : 7,400円(税別)

◎折り畳みスプーン・フォーク



◎カテーテルバッグ



車椅子の後部下に取り付けます。

※サイズ | 高さ : 31cm、幅 : 36cm、マチ幅 : 4cm

価格 : 4,200円(税別)

折り畳めて携帯に便利！ 軽くて丈夫

材質：本体：チタン、持ち手：ステンレス鋼

スプーン商品サイズ

使用時 : 3. 8cm x 15cm x 2. 5cm

折り畳み時 : 3. 8cm x 8. 7cm x 2. 5cm

価格 : 330円(税込)

フォーク商品サイズ

使用時 : 2. 5cm x 15. 4cm x 1. 7cm

折り畳み時 : 2. 5cm x 9cm x 1. 5cm

価格 : 330円(税込)

低価格で軽く携帯にも便利です。持ち手にベルトやグリップをつけてもいいのではないでしょうか！



<https://jp.daisonet.com/>

お問い合わせは HP 内のお問い合わせフォームより
お願いします。

全ての情報において、価格や在庫などについては、
各社にお問い合わせください。

 Global project Co.,Ltd.

原宿オフィス

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-4-16 神宮前

M-SQUARE

TEL : 03-5843-1850

HP : <https://www.global-pj.com/>

※メールでのお問合わせ info@global-pj.com

◎各商品の詳細については、上記のメールにてお問
合せください。

全国頸損連絡会＆関係団体 “年間予定” (2024年6月～2024年12月)

事務局

[2024]

6月8～9日（土～日）	第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会（愛媛県松山市）
7月6日（土）	第21回ケアリフォームシステム研究会全国大会 in 兵庫 (兵庫県・加古川商工会議所1階展示ホール)
8月23～25日（金～日）	第38回リハ工学カンファレンス in 東海 (日本福祉大学東海キャンパス)
9月1日（日）	全国代表者会議（秋） (岡山国際交流センター)
10月2～4日（水～金）	第51回HCR国際福祉機器展 (東京ビッグサイト)
10月（上旬予定）	全国脊髄損傷者連合会2024年度省庁交渉 (場所未定)
10月（下旬予定）	4都県合同交流会 (場所未定)
11月10日（日）	四国頸損の集い2024 (愛媛県四国中央市)

※開催場所が決定していないイベントは、「場所未定」と記載しています。

※予定日時・場所は変更になる場合があります。対面開催からオンライン開催になる場合がございますのでご了承ください。

※全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月（年3回）

※お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願ひいたします。

第38回リハ工学カンファレンス in 東海 出会いが生むミライ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～

【カンファレンス事前参加申込み開始】

人ととの直接的な対面でコミュニケーションをとることが再び活発になってきました。リハ工学カンファレンスでは直接対話を通じて知識やアイデアを共有し、支援機器や技術を発展させてきました。今回の「リハ工学カンファレンス in 東海」改めて対面だからこそ得られるリアルタイムな企画を用意しています。今年のテーマは、「出会いが生むミライ～人とテクノロジーが紡ぐみんなのくらし～」として、人と人、人とテクノロジーの出会いが生み出す新たな可能性について改めて対話し共有したいと思います。初めての参加者から経験豊富な方まで、幅広い参加者に満足いただけるよう、リハビリテーション工学に興味をお持ちの方向けにリハ工学基礎講座と、テーマについてより詳しく掘り下げるオーガナイズドセッションをご用意しています。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会期：2024年8月23日(金)～25日(日)

会場：日本福祉大学東海キャンパス

ホームページ：<https://www.resja.or.jp/conf-38/>

報道・情報ピックアップ

福祉新聞 1/18(木) 17:04 配信

障害者権利条約 総括所見の解説書（日本障害フォーラム）

日本障害フォーラム（JDF・阿部一彦代表）はこのほど、障害者権利条約を踏まえ、国連障害者権利委員会が2022年8月に日本政府に示した総括所見（勧告）の要点を冊子にまとめた。93項目に及ぶ勧告の中から「自立した生活及び地域社会へのインクルージョン」「教育」など重要な課題を絞り込んで解説した。条約や勧告が持つ意味やこれまでの経過なども整理している。

冊子はB5版、60ページ。3000冊用意した。書店販売はしない。価格は500円（送料別）。問い合わせは同フォーラム（電話03・5292・7628FAX7630）へ。



共同通信 2/10(土) 21:21 配信

災害関連死、2割超が障害者 「救えた命」への対策急務

被災後の心身の負担が原因で亡くなる「災害関連死」のうち、発災時に障害者手帳を持っていた人の割合が、2011年の東日本大震災で21%、16年の熊本地震で28%だったことが10日、自治体への共同通信の調査で分かった。国の推計によると、障害者は人口の9%ほどとされ、リスクが際立つ。関連死は適切な支援があれば防げると言われる。能登半島地震でも障害者関係施設の被災や断水が起きており、支援が途絶えないよう対策が求められる。調査は東日本大震災から20年7月豪雨までの五つの「特定非常災害」で、関連死認定があった16都県延べ149自治体（関連死計4千人超）を対象に23年11～12月に実施した。

時事通 2/26(月) 7:08 配信

車いす用客席数「0.5%」義務化 スポーツ施設、劇場で一律基準 国交省

国土交通省は、スポーツ施設や劇場などの車いす用客席について「総客席数の0.5%以上」の設置を義務付ける。これまででは自治体ごとの条例などに基づき設置が進んできたが、誰もがスポーツ観戦や観劇に親しめるよう、最低限整備すべき全国一律の基準として新設。有識者や障害者団体が参加する作業部会で近く結論をまとめ、早ければ年度内にもバリアフリー法の政令を改正する。

車いす用客席については、都道府県レベルで自主的に条例を設ける動きが先行しており、多くの自治体では義務化も含めて総数の0.5%以上の設置を求めている。国際パラリンピック委員会（IPC）の指針も、五輪・パラ大会を除く全てのスポーツイベント会場で、総数の0.5%の車いす席設置が「最低要件」だとしている。

こうした実態を踏まえ、延べ床面積が2000平方メートル以上の建築物を対象に、総客席数が400を上回る場合はその0.5%以上、同400席以下の場合は2席以上の設置を義務付ける。新築や増改築の際、この基準を満たさないと、建築できなくなる。近年新設された施設では、この基準を満たしているケースが大半。国交省が2022、23両年に行った調査によると、12年以降に整備されたスポーツ施設、公立の劇場や音楽ホールの約8～9割には、既に0.5%以上の車いす席が設けられている。

一方、大規模になるほど0.5%を下回る施設も多く見られる。例えば総数2000席以上のスポーツ施設のうち、約37%はこの基準に満たない計算。同省は法律に基づく義務化により、バリアフリー化を着実に進めたい考えだ。

支部ニュース

栃木頸髄損傷者連絡会

当会の今までのメールアドレスは使えなくなりました。今後は tochigikeison@gmail.com を使用します。メーリングリストも再構築したく、案内を近々お送りします。

東京頸髄損傷者連絡会

4月14日(日)に、稻荷山公園にてBBQ懇親会を行います。久々に、皆でワイワイできる企画です。今年は、多くの方と楽しく活動したいと思っています。何か行いたい企画があれば、ご連絡下さい。

愛知頸髄損傷者連絡会

昨年12月にコロナ以降、対面では初の忘年会を開催し、対面の重要性を再確認しました。また、2月の学習会では「再生医療」を学び、5月には三重県の鳥羽グルメ旅を企画しています。

頸髄損傷者連絡会・岐阜

来年度に向けての役員会を2月に開催しました。6月に役員会と7月に支部総会を開催予定です、対面での懇親会も今後検討していきます。

京都頸髄損傷者連絡会

京都頸髄損傷者連絡会を導いてくださった小森毅氏、古屋祥宏氏と歴代の会長が急逝されました。会の発展に尽力されたおふたりの教えを忘れず、活動しなくてはと思いを新たにしています。

大阪頸髄損傷者連絡会

4月は支部総会&交流会を予定しており、5月と6月は2か所の総合医療センターでピアサポートを行う予定です。7月にはビアホール交流会を開催するので皆さんと楽しみたいと思います！

兵庫頸髄損傷者連絡会

4月20日(土)に支部総会を、中央区文化センターで行います。5月19日(日)には、ボウリング大会を開催します。会場は、神戸ボウリング倶楽部になります。

香川頸髄損傷者連絡会

3月9日に「車いすのシーティング&重度障害者の65歳問題」をテーマに講演会を開催しました。4月にお花見、5月に総会と勉強会、7月に食事会を予定しております。

愛媛頸髄損傷者連絡会

いよいよ6月8・9日は愛媛県松山市で全国総会を開催します。公益社団法人全国脊髄損傷者連合会との対面では初の合同開催となります。情報交換の場でお待ちしています。

徳島頸髄損傷者連絡会

12月例会で新しい仲間を迎え、2月は6年ぶりに新年会を開き親睦を深めました。次はボッチャで交流する予定です。定期的に例会など会員とつながり交流していく機会をつくっていきたいです。

九州頸髄損傷者連絡会

令和5年度 障害者の生涯学習支援活動に係る文部科学大臣表彰」を受賞することができました。沢山の方々にご支援いただき、さまざまな取り組みに挑戦することができます。

支部ニュース

全国頸髄損傷者連絡会、各支部からの近況報告や今後の予定を告知していきます。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2024年6月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL : 079-555-6022 e-mail : jagoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号 : 00110-0-62671 口座名義 : 全国頸髄損傷者連絡会

※各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※電話でのお問い合わせ等は、平日10時～17時の間にお願ひいたします。

福島地区窓口「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1 (相山方)

TEL : 080-1656-1727 e-mail : hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX : 028-623-0825 e-mail : tochigikeison@gmail.com

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205 (鴨治方)

TEL : 090-8567-5150 e-mail : tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川地区窓口

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室 (星野方)

TEL&FAX : 042-777-5736 e-mail : h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL : 054-641-7001 FAX : 054-641-7181 e-mail : matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL : 052-841-6677 FAX : 052-841-6622 e-mail : kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX : 0584-77-0533 e-mail : kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313 (村田方)

TEL : 090-8886-9377 e-mail : keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターある内

TEL&FAX : 06-6355-0114 e-mail : info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL : 079-555-6229 FAX : 079-553-6401 e-mail : hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田1223 (長谷川方)

TEL : 0875-63-3281 e-mail : tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2 (山下方)

TEL : 0896-25-1290 e-mail : ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28番地 (江川方)

TEL : 0884-21-1604 e-mail : awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階 NPO法人自立支援センターおおいた内

TEL : 0977-27-5508 FAX : 0977-24-4924 e-mail : kkr@jp700.com



【愛媛支部より】「大観覧車くるりん」は松山市の拠点となる伊予鉄道の松山市駅と一体となった、いよてつ高島屋の屋上にあります。地上からの高さは85m、海拔で106mの高さまで上昇し、北は松山城、南は坊っちゃんスタジアム、西は瀬戸内海を望むことができます。

ゴンドラは車椅子に対応しています。松山へお越しの際は、大観覧車くるりんからの絶景をぜひお楽しみください。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：宮野） E-mail：h-miyano@st.rim.or.jp

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail：jagoffice7@gmail.com

TEL：079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいている。

当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。

当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円／半ページ・1万円（※1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願ひいたします。

編集後記

最近、やっとコロナの話を聞かなくなってきた。各支部のイベントや世の中のながれも普通に戻ってきている。特に関西方面では、いろいろと活発になってきている。こここのところ関東方面は少し控え目なので、見習いたいものである。2024年度の全国総会は愛媛県松山市で行われる。愛媛と言えばミカン。以前愛媛で行われた総会では空港で蛇口からジュースが出てくる所があったが、常設ではなく、飲むことが出来なかった。今では空港だけではなく、いくつかあるらしい。今年は飲みたいと思っている。他にも“じゃこ天”“一六タルト”“坊っちゃん団子”など、いろいろなご当地があります。アクセスも岡山から特急、松山空港からスロープ付路線バスなどで問題はなさそう。

皆さんのご参加をお待ちしております。

(S・K)

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月六回・六の日発行）
二〇一四年三月八日発行
SSKA頸損 増刊通巻第一一二四五号

編集人

東京都練馬区石神井町
七一一一一二〇五

全国頸髄損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三十一十七
ヴエルドウーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしふる内

TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

価額 250 円

無断転載・複製を禁じます